

シナラ (1932)

CYNARA

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 78分
初公開日 1933/06
公開情報 劇場公開

【解説】

真面目すぎた夫のよるめきを描く、女性には現在でも大変興味深いテーマの、K・ヴィダーの小品。主演は往年の二枚目、コールマンである。ナポリで結婚生活最後の日々を送る夫婦の回想から物語は始まる。場所は転じてロンドン。結婚記念日の前日だというのに、妹の色恋ざたに決着をつけに彼女を同行してベニスへ行こうという妻クレメンシー（フランシス）に、ほとんど愚痴も言わぬ弁護士ジムは、彼女を心から愛していた。その生真面目さが妻の贅沢な悩み。彼女の長い留守にも火遊びひとつしようとしないジムに放蕩者の友人トリングは、無理やり、レストランで隣り合わせた二人連れの方の娘を押しつける。服飾店でモデルをするという彼女、ドリスの快活さに惹かれたジムだが、紙に書いて渡された連絡先をちぎって棄てる律儀者。そこで一計を案じたトリングは水泳大会にドリスを出場させ、その審査員をジムに引き受けさせ、再び引き合わせた。積極的な彼女に押し切られる形で関係を持ったジムだが、それは妻が戻るまでのいっときの約束だった。しかし、クレメンシーが帰って、若いドリスの心はなお燃えた。が、拒むジム。そこにドリス自殺の知らせが舞い込み、彼は彼女の友人に訴えられる。本当は彼が初めてではなかったドリスだが、彼女の名誉を守って口を閉ざしたジムは法廷での心証を著しく害し、本国での弁護士資格を剥奪され、南アフリカへ赴こうというのだが……。

最後、妻が夫を理解するプロセスがあまりに短絡的すぎるが、フランシス、コールマン共に好演で、味わい深い大人のメロドラマとして上出来の部類。ドリスに扮するバリーも可憐で厭味なくいい感じ。ただトリングのステイーヴンソンがいかにも老獪で興をそぐ。

【クレジット】

監督	キング・ヴィダー	King Vidor
製作	サミュエル・ゴールドウィン	Samuel Goldwyn
原作	ロバート・ゴーア・ブラウン	
脚本	フランセス・マリオン	Frances Marion
	リン・スターリング	Lynn Starling
撮影	レイ・ジューン	Ray June
音楽	アルフレッド・ニューマン	Alfred Newman
出演	ロナルド・コールマン	Ronald Colman
	ケイ・フランシス	Kay Francis
	ヘンリー・ステイーヴンソン	Henry Stephenson
	フィリス・バリー	Phyllis Barry